

第1回（7月） 会議録（主な意見）

○団体が活動を通じて、社会的にどのような成果を上げたのか、貢献したのかが問われていると考えるべきである。そのためには、絶えず活動内容・状況を評価し、団体の内外（団体のメンバーにも情報の共有は重要）に発信していくことが必要である。

○地域は様々な課題を抱えており、そうした課題解決にNPOやグループ・サークル等様々な集団が関わっている。そうした集団と連携・協働した活動を展開することにより、地域の共通課題の解決に資することができれば、自らの団体の活動・存在意義が広く周知され、そうした活動に興味・関心のある新たなメンバーの加入・獲得につながる可能性が高まってくる。

○地域の人材や団体等、教育の資源となるものを把握することで、様々なネットワークの輪を拡げそれを生かしながら地域課題の解決に向け、できるだけ多くの地域住民を社会教育関係団体への参加や団体が展開する活動へと参画するように導くことが、持続可能な地域づくりにつながる。

○社会教育では、地域の大人を育てることが中心になっていくべきである。そういう教育をする場が地域には必要で、単なる学習の場ではない。何のためにこの事業をしているのか、これはこういう目的でこういう風に育っていただきたいという意思が、住民に伝わらないと公民館の存在意義がなくなっていく。

○国際的にもESDは注目を集めてきている。日本の場合は、地方を意識してこの言葉が使われやすい気がするが、都市だからといって持続可能なことが保障されているわけではなく、全体としてうまく引き継いでいけるように、地域を創っていくことを考えていく必要がある。

○私たち、婦人団体は横のつながりがあると感じた。地域に新しい団地ができてても婦人会に入らないという話もあったので、是非昔からいらっしゃる地域の方と新たに見えた方とが一緒にする行事を考えたら、婦人会の活動に加わってくれるのではと思った。

○今、PTAにおいては、活動の意義が問われている。PTA活動は、すぐ子供のためといわれるが、本当は大人の学びの場であるので、自己成長の場と捉え、もっと率先的に活動できていいのではないかと思う。もっと楽しく、自分の成長の場として活かして欲しいと考えているし、そういう雰囲気醸し出せるようにと思って活動している。